

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570101693
法人名	財団法人 弘潤会
事業所名	グループホームほのぼの小松
所在地	宮崎市大字小松1173-5 (電話) 0985-47-6555
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101番地
訪問調査日	平成20年6月30日

## 【情報提供票より】(平成20年 6月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 8.5 人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,250 円	

## (4) 利用者の概要( 6月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	4 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	86 歳	最低	74 歳
		最高	95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	野崎病院 野崎東病院
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

病院や福祉施設、コンビニや民家が混在する所に小規模多機能施設ともにある。地域に働きかけ公民館活動や地区のお祭りに参加し保育園児の訪問を受けたり小学生のお助けハウスとなったりと地域に密着したホームとして努力している。また、地域の人にホーム利用者への理解と災害時の協力を文書でお願いするなどの取り組みをしている。業務内容全てを文書化しこれまでの取り組みを積み重ねてきている。家族会では、職員の研究発表を行い、その資料を添付し、伝達事項をまとめたものを配布している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で取り上げられた、改善課題ではないが、重度化し、看取りが必要となった時に備えて、職員研修や医療連携体制加算による訪問看護と医療との連携が出来る体制が整えられた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に全職員がそれぞれに取り組み、解釈できない項目は管理者が判りやすく説明しまとめている。評価項目は、これからの気づきや課題に取り組む良い機会となった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は併設の小規模多機能施設と合同で民生委員、介護相談員、地域包括支援センター、利用者家族、内科医、法人職員等が出席可能な範囲で2か月毎に開催され事業報告や情報交換などサービス向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	来訪時や家族会、運営推進会議など機会あるごとに意見を聞き運営に反映させている。意見箱も設置されているが、直接に聞くことが多くミーティングで話し合っ対処している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の公民館行事に参加したり、小学校のPTAに協力して学童のお助けハウスになったり、中学校の職場体験を毎年受け入れ歌のプレゼントを受けたりと、地域の人々と交流することが徐々に広がってきている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で暮らすための支援のあり方について、職員全員で意見を出し合い事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が検討し、つくりあげた理念は、日々の生活の中で常に念頭においた介護に活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の公民館行事に参加したり、小学校のPTAに協力して学童のお助けハウスを引受けたり、中学校の職場体験を毎年受け入れ歌のプレゼントを受けたりと、地域の人々と交流することが徐々に広がってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に全職員がそれぞれに取り組み、解釈できない項目は管理者が判りやすく説明しまとめている。評価項目は、これからの気づきや課題に取り組む良い機会となった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は併設の小規模多機能型居宅介護と合同で民生委員、介護相談員、地域包括支援センター、利用者家族、内科医、法人職員等が出席可能な範囲で2か月毎に開催され事業報告や情報交換などサービス向上に活かされている。		運営推進会議に時には、地域の消防団や派出所からの地域の情報を得たり、ホームの理解と協力を得られる機会となることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営に関することや相談ごとをできるだけ出向いて相談する機会をつくり、サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ほのぼのたよりに行事案内や写真入りの報告を載せて毎月家族に送っている。また、家族会では、職員の研究発表を行い、その資料を添付し、伝達事項をまとめたものを配布している。金銭管理は個別に出納帳にて管理保管され家族に報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や家族会、運営推進会議など機会あるごとに意見を聞き運営に反映させている。意見箱も設置されているが、直接に聞くことが多くミーティングで話し合っ対処している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員の馴染みの関係を継続し、支援するために異動は行っていない。また、産休や育休後の復帰を考慮し、ミーティングに参加してもらうなど利用者に対する配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員、非常勤職員も全員が年間研修計画に、段階に応じた研修を受けられるようにしている。また、勉強会で発表し全職員に報告をすることで、専門職としての知識、技術の向上に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡協議会の研修を通じての交流や訪問を受けたり、同法人の他のグループホームとの交流実習を行いサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家庭を何度か訪問し、情報をもらいながら馴染みの関係づくり、ホームで他の利用者や雰囲気徐々に馴染みながら徐々に利用開始にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員の炊事当番が決められており、一緒に調理したり片づけを行い、時には梅やラッキョウの漬け方を利用者に教えてもらったり支えられたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向については、家族に持ち帰って書いてもらうようにしている。より多くの情報を得る事ができる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	集めた情報をアセスメントシートに記載し、担当職員が課題を分析し、管理者(ケアマネ)と話し合いグループ分けし全体で意見を出し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは担当職員と話し合いながら毎月おこなう、状態に応じて介護計画の見直しを行っている。定期的な見直しは3か月ごとに行い、モニタリングや計画の見直しは家族に見てもらい、意見を聞いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じ病院受診や医療連携で訪問看護を定期的にするようになった。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望するかかりつけ医があり、受診の際には、家族を通じて情報を提供し受診の結果を聞き、適切な医療が受けられるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、本人、家族に説明している。状態の変化に応じ家族やかかりつけ医等と話し合いながら対応できるように医療連携と訪問看護、職員研修も含めた体制が整えてある。		
い					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が利用者と一緒に調理や洗濯物干し、たたむ時、排泄、口腔ケアのどの場面においても、「一人ひとりの尊厳を重んじ、喜び、悲しみ、痛みを共に分かち合う・・・」とあるように理念が活かされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で出来ること、出来ないことを把握しながら、本人の希望と自主性を重んじた役割分担がきめられており、職員も一緒になって共同生活ができている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に買物から調理、後片づけを日常的に行っている。状態に応じて食事形態を工夫したり、声をかけたりさりげなく介助しながら、利用者と職員と一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望や習慣に添って、夕方から寝る前にも、入浴出来るように職員を配置し、楽しめるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	炊事、掃除、食事、買物、魚の餌やりなど本人の能力に応じた役割が、楽しく張り合いや喜びを感じられるように配慮しながら支援している。また、地域の夏祭りには全員で出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には近隣の散歩と、時には外食や文化公園の菖蒲や紫陽花などを見に車で出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関に鍵をかけていないので、外で洗濯物を干したり自由に出入りしている。外柵は午後には掛けるようにしている。		地域の人や訪問者が訪問しやすいように外柵の開錠についても工夫をしてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火、避難訓練は夜間を想定した訓練を含め年2回行い、避難経路と避難グッズの確認も毎月行っている。非常食や医療用品の準備もしている。地区の消火訓練にも参加する予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理には、多くの食材を使いバランスとカロリーと食べやすい形態を考慮した食事を提供するように心がけている。栄養士に時々チェックしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂に続くサンルームには葦簀で天井を覆われ陽射しを柔らかくしている。ソファも居間やサンルームに居心地よく過ごせるように配置されている。	○	2階の廊下の足元にもう少し明かりや、段差もスロープでわずかではあるがつまづきやすいところがあり、利用者の状態によっては、工夫をしてほしい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、趣味の物や収納棚など使い慣れた馴染みの物や写真なども飾られ、本人が落ち着き、居心地良く過ごせるように工夫されている。		